

## 秩父別町地域おこし協力隊体験談



町内トマト農家さんを取材

名前  
森<sup>もり</sup>  
瑞<sup>みず</sup>  
稀<sup>き</sup>

### 1. 移住前の仕事や生活環境

大学卒業後、1年間ニュージーランドでワーキングホリデーをしてきました。語学学校での英語の勉強、ローカルレストランでのシェフのサポート、コミュニティに参加して英語のスピーキング練習など、英語環境の中に入りそこでしか味わ

えない経験をしてきました。「2年目は別の国でワーホリしたいな」と考えていた矢先、コロナの影響で帰国しました。その後は、地元のパン屋さんで半年間パンの製造に関わってきました。

### 2. 秩父別町への移住のきっかけや

#### その際の心境変化の状況

秩父別町には大学生の時に、「ふるさとワーキングホリデー」という事業を通して来たことがありました。農産物加工センターくるとりで町の人と関わったり、秩父別温泉ゆう&ゆでの受付を行ったり、2週間秩父別町で過ごしました。この時から地域おこし協力隊のことは知っていたので、「機会があれば」次は協力隊として秩父別町に来たいな」と思っていました。

ニュージーランドから帰国してパン屋さんで働いているときに、「協力隊やってみたいな」とふと思いつき、すぐに応募して秩父別町に移住することを決意しました。

### 3. 町での仕事や生活をしてみての感想

1年目も2年目も農家さんと関わる仕事をしました。いろいろな経験させていただいたことをまとめ、SNSで発信することがわたしのメインの仕事でした。『わたし自身が何かを企画して行う』ということよりも、秩父別町の方と一緒に農作業を

させていただいたり、作った農作物で加工品と一緒に作らせていただいたりするほうが楽しく、のめりこんでいきました。

マクロで見れば同じ作業でも、農家さんごとに違うやり方、年によって変わる気候の変化と対応の仕方、農家さんと関わらないと知らなかった新しい発見があつて、それが本当に面白かったからです。一緒に作業をさせていただきながら『聞くこと』をメインに行い、『勉強させていただいている』という気持ちで聞いたことを発信していきま



ミニトマトの定植作業

農家さんと関わりながら仕事をしていると、食べ物に対する向き合い方が変わりました。農家さんからいただくものは、無駄なものを足したくないと思うほど素材の味が濃く、心に染みるほど美味しいです。これは、都市では味わえない魅力だと感じています。

わたし自身が「やりたい！」と思ったことはとにかく積極的にやりました。平日であろうと休日であろうと『その時』でないと見られないこと、経験できないことがあったので、そこは自分の気持ちに正直になって行動しました。『わたしにとって後悔しない選択はどちらか』を常に意識して、直感で「おもしろそう」と思ったことには自ら出向くようにしていました。



子ども向けに農作物を使った加工教室を開催



麦乾ロールづくりを取材)

#### 4. 今後の仕事や生活の展開予定

コロナが落ち着いてきたということもあり、『今しかできないこと』・『今自分がやりやいこと』に目を向けたとき、「オーストラリアでワーキングホリデーをしたい」と思い、オーストラリアに行くことを決めました。秩父別町に来る前から「海外にもう一度行きたい」という強い思いがあり、秩父別町の方にそのことを話すと「今やりたいことをやってきなさい！」と背中を押してくださいました。わたしはわたしらしく生きていこうと決めました。

参考1…町の面白いところ

またはお気に入りの場所

全部です。

地元（徳島県鳴門市）にない魅力的な人に囲まれて、壮大な景色を堪能できる秩父別町に「これが一番」と思えるものはないです。どれも一番です。

参考2…募集する協力隊向け一言アドバイス

（理由も）

特にはないです。

実際に来てみて、町の人と関わりを持つ中で感じたりすることが大切だと思います。